

生食用向け露地ほうれんそうの栽培法

【1 成果概要】

ほうれんそう産地の産地規模が縮小している中、対応策として露地栽培の導入を進めていますが、雨よけ栽培よりも収量が不安定なことから、本県で安定的な生産を可能とする生食用露地ほうれんそうの栽培法を確立しました。

- (1) 生食用向け露地栽培におけるほうれんそうの品種は、6月どり作型では、‘サイクロン’、‘トリトン’、‘ネオサイクロン’、10月どり作型では‘プロGRESS’の収量が高く、適しています。
- (2) 栽植距離は、現地慣行の条間15cmとした場合、株間8cmから6cmに狭めると、出荷規格に適する大きさの株が得られるとともに、収量を確保できます。
- (3) 施肥量は、窒素成分として18kg以上/10aが出荷に必要な草丈を確保できます。
- (4) 以上、栽培法の要点は以下のとおりです。

作型	品種	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		栽植距離	施肥量 (成分量)	出荷規格
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中			
6月どり	サイクロン、 トリトン、ネ オサイクロン	○	-----	○	-----											株間6cm 条間15cm	窒素 18kg/10a 以上	草丈 28~35cm 4本以上詰め・200g/袋
10月どり	プロGRESS											○	-----	○	-----			

○は種 ○ 収穫期間 □

【2 期待する活用効果】

生食用向け露地ほうれんそうの安定栽培が可能となります。

【3 留意事項】

- (1) 本試験において、病虫害防除は播種後10日から2週間間隔（1作概ね3回）で行い、病虫害の被害発生ありませんでした。
- (2) 露地栽培は、雨よけ栽培に比べて生育期間が長いことから除草対策が必要となります。本試験では播種後レナシル水和剤(商品名レンザー)を使用し、必要に応じて子葉期までにアシュラム液剤(商品名アージラン液剤)を使用しましたが、作業の支障となるほどの雑草発生はありませんでした。
- (3) 本試験において、リン酸・カリは成分量で12kg/10aとしました。
- (4) 乾燥年は、発芽や生育が遅延し生育日数を要することから、かん水設備のあるほ場での栽培が望ましいです。
- (5) ほ場周辺に明きょを設置する等、排水対策を徹底してください。

担当研究室 県北農業研究所 園芸研究室  
〒028-6222 九戸郡軽米町山内 23-9-1 TEL. 0195-47-1070 FAX. 0195-49-3011